

ドイツ連邦食料・農業省プレス公告
Bundesministerium für Ernährung und Landwirtschaft
NO 47

NO 47

2016・12・2

1 シュミット大臣：G20－幕開け－農業は安定のための鍵となる要素

ドイツ議長職のG20が、12月1日の開会に際して、連邦食料・農業大臣クリスチン シュミットが、将来性、責任、安定のための農業の意義を強調した。”農村地域の将来性のために、食料確保の責任のためにも、農業は鍵となる要素である”と、大臣はドイツの議長職G20の第1日目に、ベルリンでのG20次官会議に際して述べた。

いわゆる次官（政治的助言者または副大臣）会議は、2017年1月22日のG20農業大臣会議を準備する。この会議にドイツ連邦農業大臣は、G20の同僚をベルリンに招待する。このG20農業大臣会議は、ドイツの議長職のもとで最初の大臣会議である。”ドイツは、G20の代表者を2017年に、招待する大きな榮譽を担っている。

これは大きな責任であるだけでなく、大きなチャンスでもある”と、シュミットは強調した。ドイツ議長職でのG20「安定、責任、将来能力」の3つの重点は、1つのネットワーク化された、世界形成のモットーのもとに、農業の役割でも疑いなく発揮される。

G20：短い説明

G20は、財政－経済問題での国際共同活動のための中心的フォーラムである。G20は、世界人口の2/3強、世界規模での総国内生産の4/5以上、そして世界貿易の3/4に責任を負っている。国一政府首脳はG20サミットは、8月7日ハンブルグで開催される。そこでは、一連の多くの専門大臣が、先だってやってくる。その際、2017年1月22日に農業大臣会議が、幕開けとなる。

” 農業無しに持続的な食料確保といったような、グローバルな安定の問題は解決できない。そのため、我々は持続的な農業と農村地域を、世界的に強化しなければならない。そのため、私はドイツの議長職のもとで、G-20に尽力する” と、シュミットは述べた。

G-20は農用地の60%を占める

G-20の共同体は、世界的に経営されている農用地の60%を、そして基礎的食料の取引の80%を占めている。G-20農業大臣会議は2016年2月3日に中国において、将来的に定期的に農業政策と食料確保の問題に関して、意見をかわすという、成果多い取り決めを行った。

農業大臣会議の焦点は農業と水

シュミットが、G-20農業大臣会議に際しての重点は、テーマ「農業と水」におかれていると、予告した。農業は、今日既に利用できる淡水の約70%を必要としている。国連の分析によれば、農産物に対する世界的需要が、さらに70%増加する。これに対応して農産物生産のための水需要もまた増大する。同時に水は、他の分野からもまた大きな量で求められる、常に乏しい財産である。